

# わが国唯一の専門医療施設

## 口腔リハビリテーション多摩クリニック



歯学部長住友雅人，病院長羽村 章，教授菊谷 武が，雁首そろえて（失礼！）みえた。

いずれも緊張した面持ちだ。「口腔リハビリテーション専門のクリニックをつくりたいのですが…」

平成21年（2010）11月29日のことである。

この先進的で独創的な提案を，私は来るべきものが来たと受けとめた。摂食嚥下のリハビリは，もはや時代の潮流と思っていたからだ。

ついで，「東小金井駅前に建てたい」と告げられて，私は虚を突かれた。同駅前角地には女子職員寮が建っていたので，同地の再活用を考えたことはなかった。飯田橋からの距離と東小金井の立地からすれば，まさに最適地だった。私は，検討をすすめることを了承した。

それから3週間後の12月21日，早くも新クリニックの構想案が具体的に示された。モチベーションは高揚し，1時間半にわたって熱い論議がつづいた。

翌年，年明けの1月5日，学校法人理事会に同案が諮られた。東京一新潟をむすぶテレビ会議では，収支が論点になったが，基本プランは承認された。私は，診療所の名称は“多摩クリニック”がよいと

し，現今のタイミングから「1年でやりましょう」とネジを巻いた。住友らは一瞬たじろいだが，目標と意思が一致すれば事は加速して滑りだす。

3月29日に第一回開設準備委員会，4月11日に第二回。4月25日の第三回までに，建築費4億・設備費1億，鉄筋3階建・延床面積1,483㎡（449坪），の建物が確定した。平成23年12月着工し，10ヵ月の工期を経て，翌平成24年（2013）9月竣工となる。菊谷を中心に，わが国初の口腔リハビリに特化した医療施設が設計され，古色だった東小金井駅前を一新する斬新でモダンな建物ができる。関係スタッフは，口腔リハを具現化し先端的なモデルとする使命感に燃えていた。

早いもので，平成29年（2017）10月に開院5周年を迎えた。全国から患者さんが来院し，5年間で初診患者は8,000名を数える。私たちは，この種の医療施設が如何に渴望されていたかを実感した。

（写真：平成24年10月17日，多摩クリニック開院のテープカット。左より羽村 章，院長の菊谷 武，中原 泉，住友雅人，校友会長の近藤勝洪）